

Contents

【全体動向】 生協法改定審議の延期・韓米 FTA 消費者対策委員会の合同討論会
【韓国生協連合会】 韓国生協研究所設立1周年記念シムポジウム・Earth Day2007に参加
【韓国女性民友会生協】 生産流通認証システム発表会・「都市で生態的に暮らそう」
【生協全国連合会】 エコ生協の「エコバブサン」・ドゥレ生協連合会の民衆貿易が放映される
【ハンサルリム】 食のアドバイザー養成講座実施・学校給食におけるアメリカ産牛肉の使用を避けるために

【全体動向】

生協法の改定の審議が延期されました

今期の通常国会で予定だった生協法の改定に関する審議が再び6月の臨時国会へと先に伸ばされることになりました。国会財政経済委員会は4月24日開催した法案審査小委員会で生協法の改定を含む27法案の審査を進めましたが、生協法の改定案は審議されず6月開催の臨時国会で審議することで終わりました。

<http://www.co-op.or.kr/data/coopnews2.htm?wh=relation&sno=107>

韓米 FTA 消費者対策委員会の合同討論会が開かれました

4月24日、生協陣営が参加している韓米 FTA 消費者対策委員会は4月2日妥結された韓米 FTA の協商内容を詳しく知って今後の対応を探るために合同討論会を開催しました。討論会はソウルの国民苦衷処理委員会講堂で開かれ、約50名が参加しました。各テーマの発表者は

- ・農業と通商法の問題について - 宋キホ弁護士
 - ・韓米 FTA の経済的波及について - 鄭テイン聖公会大学兼任教授（元青瓦台経済首席秘書官）
 - ・BSE と GMO、そして医療と食品検疫について - 宇ソクギョン博士（保健医療団体連合政策局長）
- 消費者が知るべき内容について分かりやすく解説し、その問題点とこれからの対応について意見を交わした機会でした。

【韓国生協連合会 <http://www.icoop.or.kr>】

韓国生協研究所設立1周年記念シムポジウム「韓日組合員意識調査報告」を開催しました

4月10日、韓国生協研究所の設立1周年を記念したシムポジウム「韓日生協組合員意識調査結果報告」がソウル女性プラザ2階で開かれ、全国から約100名が参加しました。1部の記念式では1970年代から信用協同組合運動に携わってきた故李健雨先生が一生集めた協同組合関連書籍を遺族が同研究所に寄贈したことが紹介され、又研究所からは遺族へ感謝状が贈られました。2部のシムポジウムでは、今回の発表のためお招きした（財）生協総合研究所の近本聡子研究員から「2006年日本生協組合員意識調査結果」について報告を聴きました。引き続き、金ソンオ同研究所研究委員・金周淑所長から「韓国生協連合会組合員消費生活と意識に対する調査結果」の報告がありました。この調査は2006年11月から1ヶ月間オンラインで実施した調査で、母集団2

万人の内、4,550名の有効回答が得られました。報告の後は李ジェウク氏（生協全国連合会政策委員会長）、趙ワンヒョン氏（ハンサルリム常任理事）、朴ヘソン氏（農協流通親環境チーム長）、鄭銀美氏（韓国農村経済研究院副研究委員）からコメントを頂き、会場からもこの調査結果をこれからの運動と事業にどう反映するかについて意見が交わされました。

なお、4月9日には同シムポジウムのプレイベントとして聖公会大学流通情報学科・韓国生協研究所共催で（財）生協総研専務理事藤岡武義氏の「世界の協同組合の流れと日本生協の展望」という講演が聖公会大学ジョンデーイリホールで行われました。会場には200名の大学生、教授、全国各地の生協理事、役職員が参加し、熱い質問が交わされました。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=891&keyfield=&key=&no=220&fid=224&thread=A>

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=890&keyfield=&key=&no=219&fid=223&thread=A>

（社）韓国生協連帯全南物流センター開所式が開かれました

4月20日、全羅南道順天市で（社）韓国生協連帯全南物流センターの開所式が開かれました。同物流センターは土地1,137坪、300坪の建物で直売所、低温倉庫、冷凍倉庫、常温倉庫、小分け包装施設を完備したもので、これから全南地域の親環境農産物専用物流センターとして利用されます。同センターの特徴は「消費者密着型直売所」として行政から2億5千万ウォンの助成と、（社）韓国生協連帯の生産者・組合員の出資金6億ウォンを投入して建設したことです。開所式にはノカンキョ順天市長を始め、全羅南道及び順天市の関係者や生産者、地元順天生協、順天YMCA生協から約150名が参加し、試食と組合員の記念公演、センター見学などで賑わいました。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=898&keyfield=&key=&no=222&fid=226&thread=A>

「Earth Day2007 市民ハンマダン」イベントに参加しました

普段はたくさんの車両が往来するソウルの大学路。4月22日、この街は11時から車のない街に変わり、「Earth Day2007 記念市民イベント；Stop 温暖化 Move on bicycle, Again recycle」のイベント会場になりました。子連れの家族が多く参加したこのイベントで韓国生協連合会は、「ウリミルは生かし、ウリサルは守ろう！」というテーマで展示と体験イベントを開催しました。展示ブースではウリミル（国産小麦）と輸入小麦の比較展示、2006年韓日田んぼの生きもの調査交流と田んぼの湿地生態系が紹介され、体験イベントとしては伝統米菓子の型取り体験と自然ドゥリームケーキづくり体験を開いて賑わいました。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=897&keyfield=&key=&no=221&fid=225&thread=A>

【韓国女性民友会生協 <http://www.minwoocoop.or.kr>】

生産流通認証システム発表会がありました

女性民友会生協と（社）韓国生協連帯、聖公会大学などが出資して設立した親環境有機食品流通認証協会（www.kcod.or.kr）は、4月25日、韓国農村振興庁と共同で「生産流通認証システム発表会」を開きました。このシステムは「畑から食卓まで」生協の生産者が栽培した農産物の栽

培過程での安全性と流通過程での混入防止を目標にしたシステムとしてこの2年間整備されてきました。この場で農村振興庁は「消費者のためのGAPの理解と優秀農産物管理制度」、親環境有機食品流通認証協会からは「生産認証システムの特徴と効果」、「生産認証システムの試演」が発表され、実際に参加者が、畑から生協の物流センターを通して自宅まで供給される農産物の情報を追跡する試演がなされました。

http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo_table=notice&wr_id=167

南西女性民友会生協の「都市で生態的に暮らそう」

ソウルの南西女性民友会生協(組合員2,700名)は3~6月の第3土曜日に週末農場を開きます。ここは組合員のクラブ活動「都市で生態的に暮らそう」のメンバーたちが自然農法で野菜を栽培する農場です。メンバーたちは主に小学生とその家族、畑で苗を植えた後にはペットボトルにトマト、唐辛子の苗を植えて持ち帰り、家でも栽培します。

http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo_table=namseo_activity&wr_id=115

【生協全国連合会 <http://www.co-op.or.kr/>】

エコ生協のレストラン「エコパブサン(エコ食卓)」が開店200日となりました

生協全国連合会会員生協であるエコ生協は2006年9月ソウルの都心、政府中央庁舎後ろの商店街に親環境レストラン「エコパブサン(エコ食卓)」を開店しました。このレストランはエコ生協の組合員9名が出資して出資者の中から選出した経営・料理マネージャが運営する形です。コンセプトは環境に優しいこと。旬のもの・新環境有機食材料・天然調味料・代案貿易・輸入調味料の場合副材料までの情報公開などを挙げています。全体の売上げの内、材料費が50%以上の運営なので黒字とはいえませんが、ソウルのオフィス街できちんと継続運営できる見通しができたという自評です。昼食メニューは定食とピビンバ、生野菜のピビンバ3種類(8千ウォン)。ケータリングとお弁当も人気が出ています。(エコパブサンの連絡先はwww.ecotable.co.kr)

<http://www.co-op.or.kr/data/coopnews2.htm?wh=coop&sno=119>

ドゥレ生協連合会の民衆交易の取り組みがKBSスペシャルで放送されました

ドゥレ生協連合会(<http://www.dure.coop/>)は2005年APNETという子会社を立ち上げて韓国の生協の中ではいち早く民衆交易に取り組んできました。取り扱っている商品は主にフィリピンネグロスのマスコバド糖、パレスチナのオリーブ油です。4月22日、Earth Dayを記念したKBSスペシャル「1%の奇跡 - 善い取引、フェアトレード」でこのAPNETとネグロス生産者との交流が放映されました。番組は1時間編成。主にイギリスと日本のフェアトレードの取り組みについて取材したものです。

<http://www.co-op.or.kr/data/coopnews2.htm?wh=member&sno=1283>

【ハンサルリム <http://www.hansalim.or.kr/>】

「食のアドバイザー養成講座」を開きました

ハンサルリムは4月11日、ソウル明洞カトリック教会教育館で「食のアドバイザー養成講座」を始めました。この講座は安全で望ましい食について組合員と消費者へ案内できる組合員を育てる目的で6ヶ月間の過程で実施されます。

<http://www.hansalim.or.kr/>

学校給食におけるアメリカ産牛肉の使用を避けるために

ハンサルリム機関誌「ハンサルリム(ウェブ編集版)4月号」は、輸入再開になるならばアメリカ産の牛肉が学校給食に使われる可能性が高いと指摘し、これを避けるための行動案を提案しています。幼稚園から高校までの生徒数は735万名。韓国では高校でも学校食堂があって給食が実施されるところも少なくありません。小学校の学校給食では主に3等級の韓牛が使われ、輸入さんもオーストラリア産3等級が使われています。ところで、輸入牛肉は委託運営方式の学校ではほぼ100%使用されています。(2006年学校給食の委託運営比は小学校0.4%、中学校24.8%、高校43.9%)ですから、学校給食でアメリカ産の牛肉が導入されないようには学校運営委員会給食小委員会できちんと審議する学校のウェブサイトを通じて給食に対する情報公開を求める良質の食材料の選定、きちんとした検収、アメリカ産牛肉を使用しないように求めるなどの活動を通じて子どもたちに不意に学校でアメリカ産の牛肉を食べさせないようにすべきだと主張しました。又、「2005年度国民健康・栄養調査」によると韓国人のたんぱく質摂取が勧奨量の169%ということを広く知らせ、肉類の過度な摂取に繋がる献立の見直しを行うことを勧めています。(記事は鄭ミョンオク学校給食全国ネットワーク共同代表が執筆しました)

<http://www.hansalim.or.kr/zin/>

【編集後記】

今年の4月の天気はなかなか春らしい暖かさと晴れが続けないし、世の中でも「一喜一悲」の事件がたくさん起こりました。そんな中久しぶりに茨城町の週末農場に出かけましたら八重桜が満開していて田んぼには水を張って代掻きする様子が見られ、本当に春を感じました。畑には2年目となったイチゴの白い花が見事に咲いていました。畑の土手までランナーが伸びていて草花と混じってあったのでイチゴ周辺の草むしりを2時間もやりました。その間もミツバチは私のことを全然気にせずにイチゴの花から一生懸命に蜜を吸うように飛んでくるので何か今年のイチゴは美味しくなるような感じがして凄く楽しみです。季節ごとに自然の恵みが感じられる農の営みがこれ以上なくなる世の中になればと祈るこの春です。

(文責及びお問い合わせ：韓国生協連合会 国際チーム、金亨美、chleekim@yahoo.co.kr)